夕刊
磐城新聞
二月二十六日發行
定價 一ヶ月 [illegible]
發行所 磐城新聞社 [illegible]
〔日曜祭日翌日休刊〕

パイロット萬年筆

齋藤昌武

三

その日　殿下には極く御質素な御調度に平町住吉屋本店に於て一泊なされ、豊間の燈臺、小名濱の築港修築の進捗具合をくまなく御覧せられてより、半歳[illegible]我が日出づる近代的なお趣意!、五。五一事件、その他赤化事件・四。一六事件等々、附和雷同しやすき國民として、我等も勿論、ソシアリヅム、コンミニヅム、など——には?をなげて、過去の時代、それらの思想上の鋪道を歩んで來た。男女のため感じてその人のことでもなやまされる點が少くない。平街道のカフエーカスミ、黒猫、ライオン、タイガー、赤い灯青い灯の下にさく桃色のスパイ、今や思想錯覺のシビライゼイションも點綴し、外は日獨の交響樂、日佛のモグニック、日本文明の海外への發展、内國通運の相對性と絶對性俳優、國旗の六十六年目を過し、今や内外益々多事多難の秋、地方の同人文藝家も大いに自重自愛、郷土文藝をして愈々盛んに來る何時の日か　殿下再度の御行啓を賜はりたく、我等は郷土の青少年の熱誠なる赤心をブチ打つて、大阪城かなた殿下は勿論、我が竹の園生のいやさかへまさんことを祈願してやまない——のである。殿下が我が國皇室の輝かしい御存在として一種措くあたはざる敬虔の念を以て仰ぎ拜さるるものがある

潮聲硯靜抄帳

忘年句會

枯芝の土堤に和める西日かな　水明
明けやらぬ土手に人夫の焚火かな
やう／＼に畑打ち終えて焚火かな
始業まつ人夫の群や朝焚火
三十三才朝北やんで雪の庭　平一
積薪の中にしたしく三十三才
三十三才雪ちらほらと池の面
焚火跡かきちらしゆく二三人

春斷片一

土屋龍二

——港——
ポ　ポ　ー
と船が叫びをする
と波は嬉し氣に戯れる
が臆病な鷗はランデヴー
をやめちまひます
朝日を一杯抱ひ込んだ
マドロスの兩腕には
胸には
昨夜の淫賣婦の感傷が微
かに波打つて居る
子供の排泄物の樣な
黄色な太陽

——無題——
猫は滿腹
犬は食慾減退
詩人は春になるとイタヅ
ラガキがお好き
だけどキッスはもつと好
き
彼と彼女は今別れたばつ
かりなのに

2月27日

△フランス共和政治成立す（一、八四八）△アメリカ船下田に來る（安政二）△第十九回大阪美術展入選者發表△文豪バーナード・ショウ翁來る△イギリスの日支兩國へ武器禁輸實施さる（昭和八）

その日／＼

○

暖かいと思つて、シャツを一枚ぬいたら、風邪をひいてしまつた。

磐女校友會誌　かをりから

二つの草花

二年　林ツセ子

紫苑!何と言ふ氣高い姿であらう。薄紫の花をつけて、すく／＼と何處にも邪心と言ふ物がなく、素直に成長して居る彼の姿、朝太陽がまだほんのりとしか外界を照らさない頃に素足のまゝで朝露を踏みしめながら庭のすみに行くと、紫苑はさも驚いたと言ふ樣に朝露にぬれた体をふるわせるバラ／＼眞珠の樣な露が私の裾に散つて着物の中へとけこんでしまふ。紫苑が庭一面に薄紫の花を咲かせると、それは本當に紫の園である。それて其の葉は綠の園である。紫苑誰かは知らぬが何と姿にふさわしい名をつけたものであらう

朝顔!此の花も私は大好きだ。春の彼岸が過ぎて間もない頃、去年から藏つて置いた種々、庭のすみに蒔く時の樂しみは自から朝顔を作らない人には到底味ふ事の出來ない樂しみでわ・あの初めて双葉が崩れた時の嬉しさ。それは言ひ表しやうのない一種特別の嬉しさである。或る日曜の朝だつた。私が庭掃きをして居ると、バタ／＼と草履の音がして、妹が寢卷きのまゝで走つて來て『姉ちやん／＼、とう／＼遲刻しつちやつた』と言つて私の手にぶら下つた。『なあに、何が遲刻したの』私は妹の手を拂ひのけながら聞いた。妹は襟を弄びながら『あさがほ——あのね、昨日あたしが數へた時には蕾が七つ有つたのに、今見て來たら六つきりないの。きつとまだ目を覺さないんかしら』妹はこれだけ言ふと又バタ／＼と行つてしまつた。私は急いで庭掃きを終へて朝顔の所へ行つて見た。私の一生懸命になつて作つた朝顔は眞青い葉の間から淸々しい顔を出して私を見つめて居た。紫苑が淸楚其のもの〻樣な感じに對して、これは又何と云ふ明るい無邪氣な花なのだらう。凉しい朝顔が綠の葉をゆすつて私の顔をなで〻通り過ぎた

講談

戸隠奇譚

山の怪秘

(119)

丸山寛雄作　眞木浪畫

離合集散（二）

妙心尼と馬鹿彦は、その頃中仙道、桶川宿のあたりをさつさと江戸へ歩いてゐた。この街道は北國街道や木曾街道と異つて日陰を作るやうな大木もなければ、麗はしい山も水も見えないたゞ白い街道、埃りに染まつた灑喬木の樹林が道に沿つて斷續してゐるだけで張合ひのないこと夥しい

『妙心樣、こゝんところ少しばかりヘマがつゞきましたね』

馬鹿彦は何事が起きても俺だけは陽氣だといふ顔付で云つた

『ヘマの續くのも、時の運で致し方もないが、松井田では青が可愛さうなことをしたね　なんでも此方の宿場で噂に聞いたところでは捕まつて眞二つに割かれちまつたといふことだよ』

『えツ、あの青が……』

馬鹿彦は今にも泣き出しさうな顔になつた。青といへば自分が妙心と住つた坂城の尼寺にゐた時、始終いぢくり廻して遊んだ蛇ではないか

『だから、今まで青の死んだのをお前に話さなかつたのさ』

『妙心樣、すると青はもう俺のところへ歸つて來ねんのだな』

馬鹿彦は唯一の友とした蛇の死をきいて無暗と悲しくなつた。目頭からは熱い涙が光つて落ちた

妙心は、馬鹿彦のこの心事に同情した。わづか虫類の死に對して純な涙も流すのは、詩人と馬鹿彦位なものだ

かくて妙心と馬鹿彦は江戸へ目指せば、瀧之丞お豐も、今頃は松井田の木賃宿を離れる頃だ。羽尾太郎とヤマトの一座も、そろそろ旅に出てもいゝ時節である。種族の異る故に、種々の迫害を受けてゐるこの兄妹は首尾よく江戸へ脱出できるであらうか

刈馬平七郎は——。彼は淺間噴火口から救ひ上げられて追分の茶屋に休んだ時川中島で見失つた愛人お豐にまぎらはしい油屋の遊女が江戸へ脱出したと聞いた

岡庭典膳の行方は如何!

彼は追分の瀧之丞が開いてゐた茶屋で呉葉を殺害し顯光寺の本尊秘佛を奪はんとしたが、瀧之丞に發見されて逃げ出したまゝである

造物主だけが知る、各人物の現在の居場所とその進行いづくで誰と誰が離れたか。巧に織なせる人生街道の機はどの糸が先きに行きどの糸が遲れるか、豫測がつかない。たゞ近くにその糸の斷たれたのは追分茶屋で殺害された瀧之丞の姉呉葉と碓氷峠もつこ渡しの難所に於いて妙心のために千じんの谷底へ葬られた善光寺別當陽學僧都と、顯光寺別當靜觀僧都とであつた

中仙道に點在しつゝ江戸へ江戸へと上り行く是等の人々。それは一河の流れを行く木の葉の姿にも似てゐるではないか。二枚に重なり合つていゝ木の葉もあれば不可ない木の葉もある。風のために中途にして水底へ沈むものもあらう

由來、人生の出來事は多忙にして皮肉である。逢はねばならぬ事情の人が、逢はれず、逢ふべからざる人が、逢ふ——これが、現實世間に多く見る事實ではあるまいか

有爲轉變のこの世に處して人生の街道にマラソン競走もする人々も、一種の道化役者の一役を振られたのだ。人生といふ大芝居の何幕目で引込むのかそれは舞台監督、運命の神だけが知るところだ。人々は監督が命ずるがまゝに逃げ、追ひ討ち討たれ、怨み合ひ、のゝしり合ひ、殺し殺される諸々の仕ぐさをすればいゝのだ

廣告

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

天下一品マヅイ
素人料理
おでん　榮ちやん
花ノ里　新田町

一般電機捲替並ニ修理
發電機
セルモータ
蓄電池
マグネットチーアジ、
久野電氣工業所
平紺屋町
（呼電）三六六番

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

生花教授
池ノ坊　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

貸切り
專門優良車
乘心地の超特快適な三四年型デラックスセダン着
何卒御用命願ひます
平町四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

★
結核恐るゝに足らず!!
クスリはホシ

肺結核の疑ある人よ!!
迷ふことなくホシアンチツベルケンに來れ

（一）結核恐るべし、又恐れて恐るゝに足らず、不治の病とは一種の迷妄に過ぎぬこと明瞭となつた。
結核撲滅の根本法則は、
（イ）精神を朗かに持つことであり—
（ロ）新鮮なる空氣を吸ひ、日光に浴し
（ハ）熱のない時は温浴して淸潔を保ち
（ニ）滋養强壯物を豐富に攝取し適度の運動を行ひ
（ホ）信頼すべき藥劑に頼ることである
（二）ホシアンチツベルケンは星製藥が大なる[illegible]と誇とを持つ有名藥の一であつて、結核菌を撲滅する[illegible]と、同時に又[illegible]の功と[illegible]する水溶性の藥劑である。
（賣藥讀本）より

ホシアンチツベルケン

主治　肺結核、肺尖カタル、肋膜炎、氣管枝カタル、[illegible]
効能　咽喉・咳嗽・解熱・に應効あり
用法　大人一日三回六瓦ヲ水ニ溶解シ食後十五分服用ス十五歳以下七歳迄二分ノ一半量、七歳以下四歳迄八三分ノ一、[illegible]八六分ノ一、二歳以下十分ノ一ヲ用ユ

結核豫防に　ホシケンオ　全定　¥0.37
盗汗と營養に　[illegible]　全定　¥0.78
結核性解熱剤　[illegible]　¥0.43

—東京・大崎・五反田　星製藥株式會社—

販賣店一覧表
平町之部
五丁目　山野邊藥局
四丁目　小野藥局
同　關内藥局
二丁目　堀藥局
同　西村屋藥局
一丁目　水野藥局
同　大平屋藥舗
古鍛冶町　阿康藥舗
湯本町之部
岩瀬屋藥舗
内山藥舗
峯藥舗
白石藥舗
小名濱町之部
菅波藥舗
寶屋藥舗
白石藥舗
小川藥舗
植田之部
松原藥舗
菊田屋藥舗
安田屋藥舗
松本藥舗
金成五郎商店

ホシチエンストアー平支部
ホシ藥舗
平町三丁目三〇
電話四二九番

平町の現勢から觀て 高級助役の必要無い

問題は呆氣なく解消す

昨日青沼町長の豫算說明で

時は動く

三十四萬三千八百五十六圓の大平町十年度豫算を審議する町會は昨二十五日午後二時から開かれた、青沼町長から約三十分間に亘る豫算內容の概要說明に次ぎ直に質問の矢は根本議員をトップに川崎馬目(雅)、吉田(寅)、馬目(武)、鈴木、小松、多田井の各議員順に放たれたが、その狙ひ處は略ね所謂高級助役俸給削減の質疑に重きを置いてゐたがこれに對し町長は

——昨春縣町村長會聯合會長辭任に伴ふ事務閑散と、老齡ながら身体の頑健さは執務上に何等支障を來さぬと確信するので現在では新助役選任の必要もなからうと思ふ、尙人事行政には愼重な態度で當らねばならない、今回の新助役選任に當つて各派の暗躍を察知すればよしや置いても町政の圓滿は保たれぬのは火を見るより明かな事だ、何れも虛心坦壞、滿場一致之を認むる適材でも得なければ到底町將來の發展は望めないだらう

と所信を明にし、全議員をして深く首肯せしむるものがあつた、斯くして九年度豫算に八百圓を計上した平町の高級助役問題は茲に完全に解消した

豫決算委員決定

今日より四日間審議

來月二日顏合せ

尙野崎副議長の動議で委員附託となり今二十六日より四日間議案審議、來月二日午前十時より委員會を開く事に決定したが委員左の如し

(豫算)萩原、松崎、會川、花澤、佐々木、關內、高橋、馬目雅、馬目武、吉田寅、猪狩、荒川、野崎、酒井、緑川

(決算)小野、堀、新井、川崎、井上、根本、多田井、吉田金、佐藤幸、小松、坂本、吉村、鈴木、吉田五

勿來町會　明後二十八日午後一時から開き十年度豫算四萬九千五百二十二圓を附議するが新規事業は小學校一學級增加のみで他は目星しいものもなくそれに匡救事業がないので昨年よりも四千三百三十一圓の減、戶數割は一戶平均十二圓七十錢で昨年に比し一圓の値上

。。。。**派出所落成式**。　小名濱警部補派出所落成式は來月四日午前十時から擧行する事に決定

徵兵檢查日

郡下二ヶ所で執行

福島聯隊區管內本年度徵兵檢查執行日割は此程決定、甲班四月二十五日南會津郡田島町振出しに八月二十一日まで乙班四月二十七日若松を振出しに七月二十三日までゝある、因に本郡の執行は甲班の最終で徵兵署及び日割左の如く、抽籤は九月十九日である

平第一小學校—七月二十日より十五日半、植田小學校—八月十六日より五日

大平町建設の先決は古川改修

運動委員一行今朝上京

平町の發展を左右すると迄重視されてゐた古川(新川)改修費は屢報の如く再三の陳情も空しく豫算削減の餘波を蒙つたが前記豫算町會に於ても二、三議員より叫ばれた公會堂並に第四小學校建設急務に關する質疑に對し青沼町長もこれが前提は先づ同川改修にあるので蹶然再燃町會終了後直に急施設委員會を開き種々熟議した結果、目下問題となつてゐる東北振興會十年度事業計劃に編入さるゝやう內務省に對し猛運動を起す事になり青沼町長、野崎、井上、萩原三縣議、並に根本、馬目(雅)、馬目(武)、吉田、酒井各町議の一行は今二十六日午前七時二分發急行で上京した

第二生見學

廿八日勿來方面へ

平第二校高等二年生百三十一名は明二十八日(雨天の際は三月一日)金澤、海野、安藤各訓導引率の下に午前七時三十二分平驛發、勿來關趾、宗任の涙石、同海岸九浦、津浪の跡、縣境平潟港、六角堂、大津港等見學午後四時五十分平着歸校すると

軍用被服縫製講習

二千組を引受けた平町で

あすから二日間開催

陸軍では既報の如く東北農村救濟の一助として軍用被服縫製を農村女子に依託する事になり、平町に二千組が割當てられたので職業紹介所斡旋の下に明二十七日から二日間毎日午前九時から藤田女學校に於てこれが講習會を開くがミシンの素養あるものはメートル尺縫待針、シツケ糸、ヘラ、指拔等を持參受講(講習無料)されたいと、尙この他希望者に縫製せしむる裁縫賃は襦袢十錢、袴下八錢である

無試驗檢定。。。。　磐中本年卒業生加古信次郎君は福島高商に無試驗入學を許された

漁法違反公判。。。。　既報—四倉町坂本漁業部(代表者岩手縣宮古町坂本嘉兵衛氏)が略式罰金三百圓を不服として平町千葉辯護士を代理人とし正式裁判を申立てた漁業法違反事件は來月十二日平區で小林判事係り、白水檢事關與公判開廷すると

三小學が合同で 兒童の國旗行進

來陸軍記念日の催し

在平三小學校では來月十日の日露戰役三十周年陸軍記念日に際し既報町內各團体の催しに呼應して特に午前七時より各校五年以上の合同旗行列で本町通りを練り午前八時約二千の學童が松ケ岡公園に集合忠魂碑參拜終つて既報の如き奉天城占略の摸擬戰を見學すると

愈々强敵ガソリンカーの出現に 乘合料金値下斷行か

鐵道省の猛烈なる進出に壓迫され

自動車業界に劃期的動搖來らん?

屢報—ガソリンカー停留場に關しては各關係町村より各驛間一ヶ所宛申請したが由來鐵道當局としては之が設置に對し積極的意志なく地元よりの要望により設置するものである關係上各町村ではその敷地の提供は勿論工費(一ヶ所百五十圓乃至二百圓)の幾分をも負擔する意志を明示する必要あるものと見られる、因に該停留所は巾二米長さ二十米(カーの長さは一六米二三〇)で湯本—平間は兩側へそれ以外は片側設置となるらしく、而して乘車賃は各驛間を二分して一區を鐵道最低料金たる五錢とするではないかと觀られ、尙現行各列車の間へ一本位宛頻繁に運轉されては乘合自動車の一大打擊となるべく愈々その場合には現在の平—四倉、平—湯本、平—赤井等各關係區間に於ける乘合料金の値下げが行はるではないかと見られるが、右に就き後藤平驛長は

現在の設備に些少の手を加へより多く自他共に益する點あらばドシ〳〵實行するのが鐵道の方針であり、單に乘合自動車への對抗策ではない。云々

と語つて居る

電報發著の增加は 財界好轉の證左か

平局最近の飛躍的統計

此程平局で調査したる九年四月より十年一月迄の電報取扱數は

發信二六、一八〇　着信三四、九〇六

で、前年同期中に比し發信一、四七六、着信一七八の激增を示し、殊に一月の發信の如き前年對比三〇六增の二、七六九で之は一に財界好轉による現象とされて居る

鄉土の史的時事解說(二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內擅安置五佛像國寶各指定に就て(四)

勿來生

濟衡妻其女於隆行、遂生五男二女、乃濟衡分五郡而與五子也、乃及其隆行卒、而其妻爲出家、修道則謂之德尼也、而建立於白水、以爲五郡之宗廟也(節錄)

右の如くである

尤も之は其れより先、同寺十七世兆山全京禪師が寬文三年(二三二二)六月に作了せる『岩城之系譜』を單に文譯したまでゝある。故に其の原案は兆山に據るわけで彼の續群書類從に收めた一圖(都合二圖を載す)は、實に全京に係るのである。併し其の記述には甚だ誤りがあり、此れに就いては次節に述べる

延享元年(二四〇四)九月、秋田藩主佐竹氏の家臣岡見知愛の撰なる『作山峰之嵐』(一名、出羽六部舊記)には淸衡の子基衡と德尼の關係と、岩城の正統を則道—忠淸—淸隆—師隆—隆行—隆守—隆平—義衡と述べてをる。是れは飯沼家藏及び小泉系圖、會津四家合考史料通信志各所收系圖の云ふところと同一である。但だ隆守を隆平の上に配す門寺藏一本、吉田泰演、佐竹侯各藏本、並に藩翰譜、寬永系圖、系圖纂要、續群從等の所見とは反對であるが、寧ろ隆守—隆平(衡とも)の方が、飯野文書に徵して時代が當を得てゐる。猶ほ之の史料比較は追つて示すから、今此には詳論を避ける。按ふに、忠淸の上を則道とする方が、其の人物に異違があつても、時代的には恰當してをるやうだ

寶曆八年(二四一八)九月二日、木月堂荷葉と佳號する九十二歲の長命を保つ老俳人が、矢田村(今の鹿島村大字)の彌勒院衆に贈るために記錄した『シン集』(一名、岩城名所談)といふのがある。荷葉の本職、實名は當時、岡小名村(今の玉川村大字)法華宗安立寺住持、十六世の日忍上人で、又西山宗因門下の有名な、嘗ては平城主內藤四代義英即ち俳號を露沾と云へる人と俳友の間柄であつた

好間 谷儀一少將講演

記念行事決定

好間村國防義會では當日の行事に關し此程村役場、在鄉軍人分會等と協議した結果、第二師團第三旅團長陸軍少將子爵谷儀一氏を招き日露役回顧並に非常時打破の軍事講演會を催すことになり交涉中、承諾を得記念日當日又はその前後開催に決定した

谷少將は熊本籠城で有名な干城將軍の令孫、日露役には少壯士官として各所に轉戰偉功を立てた武人である

。。。。**木炭總會延期**。　濱三郡木炭同業組合總會は來月五日開く筈であつたが都合で十日に延期、午前十時から平團体事務所に開く

隙見男に換刑處分

四倉町新町二青年分團長提灯業古川松之助(四二)は隣家なる料理店の壁に穴をあけ他人が遊興の現場を隙見して悅に入つた事から昨年八月三十一日平區より邸宅侵入で略式罰金二十圓に處されたが今二十六日納入の資力ないからと勞役場留置を志願し換刑された

刺身庖丁で頸を刺す

不和から老婆の自殺未遂

渡邊村大字松小屋字宮の澤二二農義雄母田部スイ(六四)は二十五日午後五時頃自宅物置內に於て刺身庖丁で頸部を刺し自殺を圖り苦悶中を家人に發見されたが一命は取止めるらしい、原因家庭の不和

配達に一年半。。。。　目下住所不定無職山形縣東置賜郡西根村生れ前科三犯飯澤熊治(三六)が平町某新聞專賣所に雇はれ中去月二十七日より三十日迄に高久村下高久矢吹豊市方外十數ヶ所より領收保管中の新聞購讀代十四圓餘を遊興に費消、又去月五日より同二十四日迄の間高久村下高久鈴木節蔵外四十四名の購讀申込みを受けた旨の僞傳票を作り擴張代十五圓餘を騙取せんとして未遂に了つた事件は今二十六日午前十時より平區で小林判事、白水檢事關與で公判開廷、求刑通り懲役一年六月を即決言渡された

中堅青年見學。。。。　郡農會中堅農村青年講習生約九十名は柴田技手引率の下に前記公判を傍聽後中島裁判長より裁判に關する講演を聞き次いで平町上水道貯水場を見學した

○○○○○○十圓紙幣に雞一羽

盜んだ青年に即決一年

双葉郡上岡村大字大當字トドノクキ無職齋藤末治(三二)が去る十四日同字地內鐵道線路附近で行商風体の男を襲ひ一圓餘を奪ひ負傷せしめた强盜傷人事件は過般來平檢事局白水檢事係取調べ中であつたが、その境遇動機等に同情し被害者の哀願もあり別に隣家より十圓紙幣一枚、雞一羽を窃取したのみを起訴され、窃盜罪として今二十六日午前九時から小林判事係公判開廷、求刑通り懲役一年を即決言渡された

正誤。。　昨二十五日發行二面怪しのレコード泥記事中驛前とあるは田町に付正誤

二十七日（小名濱測候所調查）

日出　六、一一　月出前　一、一〇

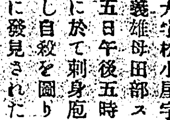
日沒　五、二九　月沒前　一〇、四三

滿潮　前八、〇五　干潮　後　五、一〇

舊一月二十四日

水曜　甲戌　赤口　成　參宿

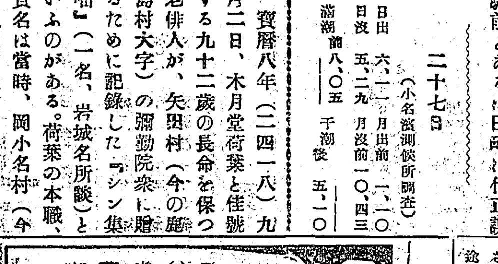
新二月二十七日



▲一白の人　小事につまづきて大事を敗る事あり守節が勝▲二黑の人　進退節度を誤らざれば平和に進展を見る日▲三碧の人　表面の景氣に浮き立ち身を滅ぼし易き日▲四綠の人　此より底はなし追々と昇る斗り氣を勵ませ▲五黃の人　思はず知らず無理を僞すことあり注意せよ▲六白の人　投機業を除きての外は何事も進んで吉き日▲七赤の人　近き所より遠きに及ぼすべきことを忘るな▲八白の人　德を以てすれば如何なる魔も犯し得ざる日▲九紫の人　焦らずとも前途は坦々たる愉快の域に入る

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

廣告


大藏省免許
磐城無盡
共存共榮
誠意堅實

高久病院
院長　高久忠
平町田町電五二三

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
久
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

專門耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需　自炊ノ便アリ）

お醬油は……ヤマフル
醸造元
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌　醬油
たひら正宗
鰹節　食料品

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
◎秤ノ[illegible]致シマス
開內藥局
電話四〇番